

仏様のおはなし新シリーズ第77集 その1 「熊本・大分地震に」

今、この文章を書いているこの時、大地震によって被災された熊本・大分の方々が、筆舌に尽くし難い苦しみ、悲しみを抱えながら、不安な日々を過ごしておられます。私も被災された方々に何かできないかと、全国から寄せられる支援物資を車に詰め込んで、また学生たちと片付けや炊き出しに通っていますが、その悲惨な状況を前にして立ちつくすばかりです。

倒壊した家屋、避難されている方々の姿に触れ、自然の猛威を目の当たりにしながら、学生たちと共に東日本大震災の被災地を訪れた折に、漁師さんたちとの交流会「居酒屋筑女」に於いて、酒を酌み交わしながら語り合った話を思い出しました。自然は私たちに恵みを与えてくれます。また、時に自然は私たちに災いをもたらします。自然とはそうしたものです。ならば、私たちは自然とどのように向き合えばいいのでしょうか。意外に答えは簡単です。自然が私たちにどのような災いをもたらしても、私たちが助け合い、支え合って、それを乗り越えていけばいいのです。であれば私たちは、不意に訪れる災いに備えるという意味でも、日頃から助け合い、支え合って生きていかなければなりません。

過去の災害は、人ほどのような困難に出遇っても、それを乗り越えていく力を持っているということを教えてくれます。しかしそれは、困難を乗り越えようとするその人を誰かが助け、支えたからこそ可能だったのです。同じ九州の地で起きた今回の震災は、今私たちが困難を乗り越えようとしている人を支える助ける、誰かになっているかということ問うているのでしょうか。

私たち真宗門徒は「御同朋(おんどうぼう)」を日常の中に実感できるものにしていかねばなりません。

担当は、祇園町、覚永寺住職、栗山俊之でした。

